

インフラ輸出技術利活用検討調査事業[新規]

【17(0)百万円】

対策のポイント

食のインフラ輸出を促進するため、我が国が有するフードバリューチェーン構築に関する技術の優位性や活用について調査・検討を行います。

<背景/課題>

- ・ 海外でのインフラ受注において、我が国が価格競争のみで他の競合国に勝つことは困難となってきたことから、経済性(ライフサイクルコストの低減)、安全性、自然災害への強靱性等の付加価値を考慮した日本の「質の高いインフラ」技術を売り込んでいくことが重要となっています。
- ・ 一方で、新興国ではフードバリューチェーン(FVC)が発展中であるため、食のインフラを輸出する余地があり、生産分野(灌漑施設等の農業インフラ)を起点として、製造・加工、流通、消費等のFVCの川下部分もパッケージ化した整備を進める好機となっています。
- ・ このため、パッケージ化した整備が可能な技術を選定するとともに、競合国と比した技術優位性を特定するための調査・検討を行うことで、我が国の食のインフラ輸出を推進し、政府が取り組むインフラシステム輸出の拡大に貢献します。

政策目標

我が国の食のインフラの技術に関する情報を収集・分析し、海外における我が国企業による約30兆円(2020年)のインフラシステム受注に貢献。

<主な内容>

インフラ輸出技術利活用検討調査事業

17(0)百万円

(1) パッケージ化・優位技術の調査検討

- ① 生産分野とパッケージにした整備・輸出が期待される、我が国の食のインフラに係る技術を選定します。
- ② 現地調査や企業への聴き取り等を通じ、食のインフラにおける我が国の技術の優位性を概定します。

(2) インフラ技術活用のための研究会の開催

有識者によるインフラ技術活用のための研究会を開催し、我が国の技術優位性等を特定するとともに、活用可能な技術を取りまとめます。

委託費
事業実施主体：民間団体等

お問い合わせ先：
大臣官房海外投資・協力グループ (03-3501-7402)

インフラ輸出技術利活用検討調査事業

事業概要・目的

【課題】

- 海外でのインフラ受注において価格競争のみで競合国に勝つことは困難であり、経済性（ライフサイクルコストの低減）、安全性、自然災害への強靱性等の付加価値を考慮した日本の「質の高いインフラ」技術を売り込む必要。
- 新興国ではFVCが発展中でインフラ輸出の余地があり、生産分野（灌漑施設等の農業インフラ）を起点として、FVCの川下部分もパッケージ化した整備を進める好機。

【事業概要】

- 我が国が有するフードバリューチェーン構築に関する技術の優位性や活用について調査・検討を実施。

【関連施策：インフラシステム輸出戦略】

- 我が国食産業の海外展開と途上国の経済成長を図るため、フードバリューチェーン構築・食のインフラ輸出を推進。

事業イメージ・具体例

- ①生産分野とパッケージにした整備・輸出が期待される食のインフラ技術の選定。
- ②現地調査や企業への聴き取り等を通じ、食のインフラにおける我が国の優位技術を概定。
- ③有識者の研究会の開催による、我が国の優位技術の特定及び活用可能な技術の取りまとめ。

FVC関連技術



期待される効果

- 我が国の技術及び民間企業の海外展開の促進
 - 食のインフラの関連技術の連鎖を通じたインフラ輸出の拡大、フードバリューチェーンの構築
- 約30兆円(2020年)のインフラシステム受注に貢献

資金の流れ

